

## TCPトビンスプラン評価アンケート結果【教職員】

A 大いに思う B 概ね思う C あまり思わない D 全く思わない

単位 (%)

評価項目	評価	R3年度	R4年度
<b>★子供の「確かな学力」を保障する環境づくり</b>	A	31.8	21.9
	B	51.4	59.6
	C	15.9	16.7
	D	0.9	1.8
(1)授業日の平準化により放課後の時間を生み出したことは、 教員の授業準備の時間を確保し、子供の学力を保障することにつながっている。	A	62.6	70.2
	B	33.6	27.2
	C	3.8	1.7
	D	0.0	0.9
(2)各校にALTを1名ずつ配置したことは、 子供の英語学習の充実につながっている。	A	17.6	5.3
	B	51.4	74.7
	C	29.7	20.0
	D	1.3	0.0
(3)プログラミング共通教材(MESH)は、 子供のプログラミング的思考を高めることにつながっている。 (小学校)	A	21.6	13.6
	B	62.7	72.9
	C	11.8	11.9
	D	3.9	1.6
(4)学校独自の中間テストを実施したことは、 教師が生徒の学習状況をタイムリーに評価し、指導に結び付ける ことで、学力向上につながっている。(中学校)	A	43.0	42.1
	B	47.7	50.9
	C	9.3	7.0
	D	0.0	0.0
(5)教員補助の配置や公設学習塾の開設は、 学力定着に課題を抱える子供の学力向上につながっている。	A	56.1	57.0
	B	40.2	40.4
	C	3.7	2.6
	D	0.0	0.0
(6)教員補助や外国人児童生徒相談員の配置は、 特別な教育的支援を要する子供を中心としたとした個に応じた 支援の充実につながっている。	A	14.0	16.7
	B	66.4	67.5
	C	15.9	14.9
	D	3.7	0.9
(7)「幼児教育カリキュラム」や「吉田探究」は、 幼児期と小学校期、小学校期と中学校期のつながりのある教育 を推進する核となっている。	A	14.0	16.7
	B	66.4	67.5
	C	15.9	14.9
	D	3.7	0.9

評価項目	評価	R 3 年度	R 4 年度
<b>★教職員が授業等に専念できる環境づくり</b> (1)授業日の平準化により放課後の時間を生み出したことは、授業改善のための準備時間の生み出しと、超過勤務時間の削減につながっている。	A	28.0	27.2
	B	51.4	51.8
	C	16.8	18.4
	D	3.8	2.6
(2)学校閉庁日を設定したことは、教職員の自己研鑽の時間を生み出すとともに、休みやすい環境を整える上で効果的である。	A	61.7	66.7
	B	35.5	30.7
	C	1.9	1.7
	D	0.9	0.9
(3)校務アシスタントや学校用務員、部活動指導員の配置は、教職員の業務を物理的に減らし、教職員の多忙化解消につながっている。	A	84.3	71.1
	B	9.3	25.4
	C	6.4	3.5
	D	0.0	0.0
(4)全教職員研修会やICT研修、その他、各主任レベルの研修会は、教職員の資質能力の向上につながっている。	A	25.2	26.3
	B	60.7	67.5
	C	13.1	6.2
	D	1.0	0.0
<b>★基盤的整備</b> (1)「エアコン完備」「トイレ洋式化」「教室照明LED化」は、安心して教育活動を行うことにつながっている。	A	77.6	79.8
	B	20.6	20.2
	C	1.8	0.0
	D	0.0	0.0
(2)「一人一台端末の整備」「大型提示装置（電子黒板・テレビ）の整備」「Wi-Fi環境の整備」は、子供の学びの充実につながっている。	A	64.5	65.8
	B	32.7	33.3
	C	2.8	0.9
	D	0.0	0.0
(3)コミュニティ・スクールを導入したことは、学校と地域との連携が深まるとともに、児童生徒が楽しく学校生活を送ることにつながっている。	A		29.8
	B		56.1
	C		14.1
	D		0.0